

2023 北海道最賃情報

2023年7月31日 第3号

発行：連合北海道最賃対策委員会

—北海道労働局前「昼休み集会」を開催— 「誰もが時給 1,000 円」の早期実現を！

7月31日の正午、時折強い雨が降る中、連合北海道と連合北海道石狩地域協議会は、2023年度北海道地方最低賃金(以下、最賃審議会)の改定審議が本格的に始まるにあたり北海道労働局前で「昼休み集会」を開催し、昨年を上回る最賃の引き上げや10月1日発効を求めた。

●消費者物価指数を上回る引き上げを

冒頭、主催者を代表して連合北海道の和田副事務局長(最賃審議会委員)は、中央最低賃金審議会で本年度の地域別最低賃金の目安が決まったことに触れ「全国平均で 1,000 円に届く各ランクの目安が示されたが、最低賃金近傍で働いても年間収入は 200 万円以下。セイフティネットとしての役割を果たしていない。」と述べ、審議会が目安以上の引き上げを求めていく姿勢を示した。

つづいて、山田組織労働局長(最賃審議会委員)が、中央最低賃金審議会や、最賃審議会・専門部会の経過を報告したのち「北海道は40円の目安が示された。しかしながら消費者物価を超える水準の引き上げがなければ実質賃金はさがってしまう。」と現状について言及したうえで、「今年の審議会は、『誰もが時給 1,000 円』のステップになるよう労働者側としてしっかりと意見反映をしていきたい。」と述べた。

最後に、参加者たちは労働局に向かってシュプレヒコールを行い最低賃金の 1,000 円以上の引き上げや、働きに見合った最低賃金の改正、10月1日の発効などを強く求めた。



傘を持ち参加する様子(上)、挨拶をする和田副事務局長(左)と経過報告をする山田局長(右)

●2023地域別最低賃金の改定目安が決定

中央最低賃金審議会の目安に関する小委員会は7月28日、地域別最低賃金の改定目安をAランク41円、Bランク40円、Cランク39円と示した。本年度の目安が過去最高額となった背景には、2023春季生活闘争では30年ぶりの高い賃金引き上げ水準となったことや、時限的なエネルギー価格の負担軽減策により上昇率が押し下げられている消費者物価指数は依然として対前年同月比で4%前後と高い水準にあること、最低賃金近傍で働く労働者の購買力を維持する観点から、最低賃金は消費者物価を一定程度上回る水準が必要なことなどが挙げられた。

今後の議論の場は各地方に移される。Bランクに属する北海道では、7月31日から北海道地方最低賃金審議会および専門部会が断続的に開催され、本格的な金額審議が繰り広げられる。